

私の視点

シンクタンク研究員
(ロンドン大学大学院博士課程在籍)

がく
加藤 とも



古賀潤一郎衆院議員の学歴詐称に関する騒動は、議員自身が卒業証書探しの旅に出たという珍妙さよりも、自ら過熱した報道をしながら、事件を学歴主義を象徴する出来事だと書く報道各社の矛盾ぶりのほうが滑稽であった。

1月25日付の本紙社説は「学歴信仰がまだまだはびこっていることをうかがわせる深刻な笑い話」と論評し、31日付の本欄でも「選挙公報に候補者の学歴を記

載するのは禁止したほうがいい」という元参議院議員の学歴否定論が展開された。だが、これは全く無責任な主張である。

学歴が候補者の優劣を決めるすべてでないことなど、有権者のほとんどは認識している。しかし、実際に会ったこともない候補者

政治家としての資質を判断する重要な要素となる。

学歴否定論者は「いい大学を出ても社会で通用するわけではない」「大学を出なくても成功した人はたくさんいる」という。

その通りである。しかしそれは、一部の成功者の才能や努力を称賛するには十

ろ、学歴に対する社会的評価が徹底されていないところにある。欧米の求人広告では、要求する学位の種類が明確に記載されていることが普通だし、有名大学のMBA(経営管理修士)

取得者や博士号保持者などには、それ相応のポジションと給与が保証されている。

を卒業する学生も多い。大学側もそうした状況に甘んじ、社会で通用し得る十分な専門教育を行うことなく、卒業生の量産を続けてきた。そして今、同じ現象が雨後の筍のように設立される大学院でさえも起きています。日本の国立大学の大学院の修士修了者が、履

採用する側が就職希望者の専門知識の内容を吟味するようになれば、「大学では何も学ばなかった」などという開き直りは通用しなくなるだろうし、大学側ももっと真剣に専門教育のレベル向上に努めるだろう。

◆古賀議員騒動 安易な学歴信仰批判は罪

の中から一人に投票する有権者にとつては、学歴は候補者の人となりを知る重要な情報のひとつである。その候補者がどんな大学を出てどんな学位を取ったのかを知ることは、候補者にどんな知識が、どのくらいのレベルまで備わっているのかを把握することであり、国の針路を議論し決定する

分だが、学歴を否定することにはならない。学歴は、学士、修士、博士という学位により、その人の専門知識の達成度を示す指標だ。それを正当に評価しないことは専門知識を身につけることを否定することであり、高等教育そのものの否定につながるかねない。

日本における問題はむしろ、学歴に対する社会的評価が徹底されていないところにある。海外では、ビジネス名刺に取得学位を書き込むケースも少なくない。

韓国や台湾での高学歴主義は、日本の比ではない。日本では、文系の場合、有名大学であれば出身学部を問わず、どの業界でも就職ができる傾向がある。「学位」はながいしろにされ、その言葉さえも知らず大学

修科目不足を理由に英国の大学院の博士課程への直接進学を認められなかった、というケースはよく聞く。何をどのくらい学んだのかを示す意味での学歴が、採用時などでの一般的な評価基準として確立していれば、受験生や大学生は自分がやりたい将来の仕事に向けての目標を立てやすい。

投稿規定 1300字程度。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒104-8011朝日新聞社企画報道部「私の視点」係へ。電子メールはsiena@casi.com 二重投稿、採否の問い合わせは遠慮ください。本社電子メディアにも収録します。原稿は返却しません。

採用する側が就職希望者の専門知識の内容を吟味するようになれば、「大学では何も学ばなかった」などという開き直りは通用しなくなるだろうし、大学側ももっと真剣に専門教育のレベル向上に努めるだろう。

学ぶことへのインセンティブを高めるためにも、安易な学歴否定論はやめ、社会や企業はむしろ、もっとシビアな目で学歴を評価すべきである。